

滞在報告

分子環境解析化学研究領域 博士課程 2年 岡昂徹

令和7年度化研国際共共拠点若手研究者国際短期派遣事業の支援を受け、約1か月間にわたり、オーストリア・グラーツ工科大学のRoland Resel教授のもとで研究滞在をしました。さらに、同教授の研究グループと共にイタリア・トリエステの放射光施設であるElettraに訪問し、全5日間の実験に参加しました。グラーツはヨーロッパ有数の大学都市であり、学生たちの活気に満ちていました。イタリア・トリエステは長期にわたりオーストリア＝ハンガリー帝国の統治下にあったことから「小さなウィーン」と呼ばれる、美しい町でした。滞在期間は、共同研究の目標をすり合わせることから始め、それを踏まえてトリエステの放射光施設での実験、グラーツ工科大学へ戻って解析とディスカッションを行う流れでした。有機半導体薄膜の分子凝集構造を解明することが主な目的であり、自分のアウトプットイメージを超える成果を得ることができました。

トリエステでは町の中心から放射光施設へ毎日通い、仲間たちと協力して実験計画を進めました。特に同年代の博士学生が実験を主導し、トラブルに対処する姿はとて頼もしく、私の研究に対する姿勢を見直すきっかけとなりました。グラーツでの普段の研究生活は、解析やディスカッションに集中的に取り組み、Roland先生や学生たちから多くのことを教えていただきました。研究時間外では学生同士での交流が盛んに行われ、自宅に招いてもらい母国の家庭料理をふるまってもらうこともありました。また、チェコのCharles大学からVáclav Holý教授が集中講義のため滞在されており、私も全15コマの「X線回折の基礎」に関する講義を受講しました。この集中講義期間は、研究所全体を対象とした交流イベントが多数用意されており、平日はランチ、休日はハイキングといった密度の高い時間を過ごしました。ハイキングは過酷であり、距離10Km以上、高低差1000m級のコースを2日続けて歩きました。60歳を超える教授の方々が私よりも遙か先を歩く姿に圧倒されました。このように、短くも充実した貴重な1か月を過ごしました。

最後に、貴重な機会を与えてくださった京都大学化学研究所ならびにグラーツ工科大学の関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



↑友達に作ってもらったエッグカレー。



↑ハイキングの様子。